

6 各地域相談担当者やサービス提供事業者への支援状況

	関係機関名	支援状況
H23.11.8	北海道大学医学部保健学科	作業療法学科の学生に対して、職業周辺作業療法の講義を行った
H23.11.18	岩見沢保健所、同市内在住の家族、当事者、ボランティア団体	高次脳機能障害者の就労体験（一問一答方式で既就労当事者の体験発表をした）
H23.12.16	石狩障がい者就業・生活支援センターのいける、石狩市内と周辺の障害者就労支援機関	高次脳機能障害者の就労支援と生活支援について講義
H24.1.8	大分県内の医療関係者、障害者職業リハビリテーション関係者、障害者福祉関係者、当事者家族	高次脳機能障害者の就労支援と生活支援について講義

7 その他

既就労者に対し、電話相談、余暇支援（クラブハウス、レディースの行事に勧誘）を行う
クラブハウスにおいて、月1回の就職セミナーを行う

平成 23 年度北海道高次脳機能障害支援事業実施報告書「就学（準備）支援」

NPO 法人コロポックルさっぽろ

1. 支援プログラムの実施状況

(1) 支援の対象者

	年齢	現在	性別	受傷原因	受傷後経過期間
1	15 才	中 3	男	脳外傷	8 年
2	16 才	高 1	女	脳外傷	9 年
3	9 才	小 3	男	脳外傷	4 年
4	17 才	高 2	男	脳外傷	6 年
5	16 才	高等養護 1 年	女	脳腫瘍	15 年
6	13 才	中 2	女	脳血管障害	4 年
7	12 才	小 6	女	インフルエンザ脳症	10 年
8	12 才	小 6	男	髄膜炎	10 年
9	11 才	小 5	女	低酸素脳症	10 年
10	14 才	中 2	女	低酸素脳症	13 年
11	11 才	小 5	男	脳外傷	3 年
12	15 才	中 3	男	脳外傷	14 年
13	15 才	中 3	男	インフルエンザ脳症	2 年
14	16 才	養護学校 1 年	男	脳内出血	4 年
15	18 才	高 3	男	脳外傷	7 年
16	19 才	高 3	男	脳外傷	3 年
17	13 才	中 2	男	脳外傷	4 年
18	13 才	中 2	男	インフルエンザ脳症	1 年
19	4 才	保育園	男	脳外傷	1 年

* 前年度から引き続き支援をしている方 17 名

* 平成 23 年度新たに支援をした方 2 名

(2) 相談件数 (2010 年 4 月～12 月)

	種別	回数
相談・支援方法	来所	4
	電話	36
	メール・郵便	15
	同行	1
支援内容	学校・進路など	26
	対応について	3

支援内容	親の会(家族会)について	10
	医療について	5
	専門機関・社会資源など	5
	手帳・制度など	6
	その他	1

2 支援計画の作成と評価

作成実績	入学支援で1名の支援計画を作成
評価内容	<p>普通高校入学が決まり、進学に向けての支援計画を作成。</p> <p>特別支援教育の相談機関と連携を取りながら、入学後の学習・生活について、事前に環境調整をしてもらえるよう支援。</p> <p>学校内で連絡調整してもらって2学期まで順調に通学するが、友人関係、学習面でつまずきが出て、今後の支援を検討中。</p>

3 支援調整・会議の開催

開催日時	開催場所	参加者数	内 容
5月17日 16:00~18:00	札幌市立H小学校	4人	小学校3年生の当事者の校長、担任教諭、保護者、コロポックルが参集。今後の学びの支援について話し合う。
6月17日 15:00~17:00	南富良野町保健福祉センター	18人	高校2年生の当事者の支援に関わる10機関(町福祉課、町社会福祉協議会、道保健所、高校、専門学校、医療、相談支援センター、生活支援センター、コロポックル、当事者の保護者)が参集。近況の報告と今後の進路について話し合う。
毎週火曜日	コロポックル	2~3人	新規相談、支援者の現状と支援について打合せ

4 関係機関相互の情報交換及び状況の把握

実施日時	関係機関名	情報交換内容等
4月1日 4月2日 5月17日 5月19日	富良野保健所	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者の進路の支援について ・支援者会議について
7月22日 8月26日 12月2日 12月15日	帯広保健所	<ul style="list-style-type: none"> ・現地調査について

8月30日	苫小牧保健所	・家族の学習会について
10月6日		
12月2日		・当事者・家族の情報と支援について
10月3日	相談室つぼみ	家族向けの資料について
6月7日	札幌市市障がい福祉課	障害を持った子どものウィズユーザーカード使用について
6月28日		
10月13日	北海道特別支援教育センター	当事者の情報と支援について
6月27日	南富良野町福祉課	当事者の進路の支援について

5 支援ネットワークの構築

機関名
北海道特別教育支援センター
北海道富良野保健所
南富良野町保健福祉課
北海道苫小牧保健所
北海道帯広保健所
相談室つぼみ
千葉リハビリテーションセンター

6 各地域相談担当者やサービス提供事業所への支援状況

実施日時	関係機関名	支援状況
9月5日	帯広保健所	現地調査同行
9月6日		
9月12日		
9月15日		
9月16日		
12月26日	帯広保健所	事例検討会の事例を紹介
1月10日	帯広保健所	教職員研修について事例を紹介
1月12日		

7 その他

学齢期の家族会を開催	札幌にて学齢期の家族会を開催(6月4日) 参加・家族7人、支援機関1人、託児スタッフ3人、託児7人
高次脳機能障害者支援対策会議に参加	帯広保健所(6月20日)

高次脳機能障がい者支援研修会で講演	紋別保健所「遠紋地域高次脳機能障がい者支援研修会」(8月25日)地域の保健・福祉・教育関係者 民生委員など
家族のための学習会で報告	苫小牧保健所(10月11日) 参加・家族10人 支援機関2人
子どもの高次脳機能障害について講義	北星学園大学社会福祉学部にて 「子どもの高次脳機能障害の支援」について講義(12月12日)
大分県高次脳機能障害リハビリテーション講習会で講演	「子どもの高次脳機能障害の支援について～福祉と教育機関の連携～」(1月8日) 地域の保健・福祉・教育関係者 150名参加
高次脳機能障がい者支援事例検討会に参加	帯広保健所事例検討会(学齢期の脳外傷の事例)(2月6日予定)
高次脳機能障害者支援情報マップ作成事業にワーキング委員として参加	千葉リハビリテーションセンターが事務局となり、全国を網羅する支援情報マップを3か年かけて作成予定。 9月17日、12月4日、3月11日(予定)

平成23年度高次脳機能障がい者支援事業（リハビリ提供・地域生活支援事業）委託事業
支援区分 授産（小規模）施設利用 実施報告

NPO法人 Re～らぶ

(1) 高次脳機能障がい者に対する【授産（小規模）施設利用】支援のあり方について

当法人における高次脳機能障がい者への支援は、当事者や家族が抱える「生活のしづらさ」の改善を目標にし、その人が自分にできる事を自分のペースで取り組めるように支援を行う。その支援をより効果的に行うため、毎朝実施のスタッフミーティング等で、情報及び支援方法を共有するなど支援の一致方式を用いて、利用者が地域で地域で自分らしく暮らしていけるよう支援を行っている。

また、必要に応じて医療機関や保健所、就労支援機関、行政や地域の相談支援事業所、他の障害福祉サービス事業所等の関係機関と連絡・調整を図る事で、包括的な対応を行っている。

(2) これまでの【授産（小規模）施設利用】支援対象者について

当事業所の利用者に対し、地域社会で自立した生活を行えるよう、個々が抱える病気や問題等を解決できるよう、支援計画に基づき生産活動や作業、コミュニケーション能力等の向上を図るための活動を実施した。

(通所者の状況)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
通所者	9名	9名	10名	10名	10名	10名	10名	10名	10名	9名		
実施日数	21日	21日	22日	21日	23日	22日	22日	21日	21日			
延べ日数	180日	177日	196日	193日	200日	201日	197日	198日	169日			
1日平均利用者数	8.5人	8.4人	8.9人	8.7人	8.7人	9.1人	9.4人	9.4人	8.0人			

(通所者年齢構成)

～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳～	合計
1名	2名	3名	3名	1名	10名

●また、当事業所利用者以外からの相談にも随時対応した。

(平成23年4月1日～平成24年1月10日まで)

(相談支援件数)

電話	来所	合計
33件	18件	51件

(相談内容内訳)

相談支援	施設紹介・見学	情報交換等
23件	15件	16件

(相談対象者)

当事者	家族	医療機関	福祉施設等	相談支援事業所	学校
13件	11件	12件	10件	10件	5件

(3) 【授産（小規模）施設利用】支援担当会議について

(4) 【授産（小規模）施設利用】支援計画について

利用者10名に対して、本人及び家族の意向をもとに個別に応じた支援計画の原案を作成し、その後支援担当会議にて話し合いのうえ、支援計画の提供を実施している。

実施に当たっては、毎朝のスタッフミーティングの中で利用者に関する状況や対応や支援した内容を話し合い、1か月に1度担当会議の中で利用者1～3名の支援計画の見直しが必要かどうか図っている。

また、必要に応じて家族や医療機関、相談支援事業所、福祉事業所等、学校等と連携を図っている。

(支援担当会議の実施状況)

日時	参加者	日時	参加者
4月21日	4名	9月15日	4名
5月19日	5名	10月13日	4名
6月16日	5名	11月17日	5名
7月21日	4名	12月15日	4名
8月18日	4名		

(5) 当事者・家族に対する【授産（小規模）施設利用】支援調整の方法について

当事者及び家族に対しては、随時相談に応じながら必要な場合に当事者・家族の同意を得たうえで各関係機関に相談や紹介等の連絡等を行っている。

(家族会の実施)

	開催日時	参加人数	内容等
1回目	7月30日	6名	当事者の置かれている状況報告及び意見交換
2回目	24年2月18日予定		

(6) 【授産（小規模）施設利用】支援ネットワークを構築するための関係機関の選定や方法について

医療機関や行政、就労支援関係や相談支援事業所、障がい福祉サービス事業所等様々な関係機関と包括的な連携を実施し、高次脳機能障がい者に対する様々な支援支援ネットワークを構築してきた。

(福祉事業所等のつながり)

実施日	関係機関名	情報交換内容等
23. 4. 27	と・わ〜く (就労継続支援B型) 岩見沢市	施設内に2名の高次脳機能障がいの利用者があるが、どのような支援のあり方があるのか勉強したい思いがあったところ、札幌市内の相談支援事業所より法人の事業所を紹介され、問い合わせを受ける。 職員2名が1日体験実習を希望され、受け入れると共に、お互いの事業所の取組み等を意見交換する。

(福祉施設等から医療機関へのつながり)

23. 7. 22～	ウイズ工房 (地域活動支援センター) 札幌市東区	高次脳機能障がいの施設利用者の対応に苦慮しているため、どのような支援方法があるのか相談を受ける。 その後、当法人より本人のかかりつけ医である北大へ繋ぎ、当事者・家族、事業所と連携してより良い支援方法ができるように結び付けを行っている。
------------	--	--

(医療機関とのつながり)

23. 4. 11～	クラーク病院 白石脳神経外科病院	クラーク病院より入院中の高次脳機能障がい者の退院後の施設利用について相談を受ける。 体験実習を経て、同年6月より利用契約を開始。 利用にあたり、同院では高次脳機能障がいの診察が困難なことから、地域の白石脳神経外科病院に相談し、以後の診察に応じていただいた。
------------	---------------------	--

(地域でのつながり)

23. 8. 18	地域自立支援協議会 白石地域部 会	同協議会で学習会の企画に際し、高次脳機能障がいの理解を深めるよう働きかけ、支援拠点病院にお願いを図り、講演会を実施した(参加者83名)。
23. 9. 12～	東白石中学校 コロポックルさっぽろ	上記の講演会に参加した東白石中学校の養護教諭より、他のクラスで高次脳機能障がいの診断基準に当てはまりそうな生徒がいるが、どのように働きかけたら良いのか、と相談を受ける。 コロポックルさっぽろに連絡調整をお願いし、以後、両者で対応を実施しながら、情報交換等を行っている

(7) 【授産（小規模）施設利用】に関する支援技術について

高次脳機能障がいへの理解促進及び小規模施設利用に関する支援方法等について、当法人の活動実践を通して以下の場所で報告してきた。

- ・平成23年6月23日
平成23年度 高次脳機能障害事例検討会
「医学的評価を地域通所施設で活用した事例
— Re～らぶにおける支援経過について — 」
- ・平成23年10月20日
平成23年度高次脳機能障害ネットワーク会議（中標津保健所主催）
「高次脳機能障害者理解と障害特性に応じた支援について
— Re～らぶにおける支援の実際から — 」
情報交換として
「高次脳機能障がい者支援の実際～各機関が工夫している事」
- ・「北海道高次脳機能障害リハビリテーション講習会」
・「高次脳機能障害者事例検討会」
の実行委員として、企画・運営に携わる。
- ・平成23年8月10日
社会と文化の心理学 出版（世界思想社）
第8章～障がい者と共に生きる
青木 美和子 著
- ・平成24年2月18日（予定）
当法人主催 研修会
「みじかな高次脳機能障がいについて」
講師：青木 美和子（札幌国際大学人文学部心理学科専任講師
発達・臨床心理学担当）
- ・当事業所での活動が北海道新聞に掲載
平成23年 5月19日
平成23年 8月18日

1. 実施状況

(1) 相談支援件数と内容

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
電話（家族・本人）	4	1	-	2	1	-	6	1	4	19
電話（関係機関）	7	5	2	2	1	5	5	8	4	39
文書・メール	1	-	1	1	1	1	4	1	-	10
見学（家族・本人）	1	4	-	-	-	-	2	-	-	7
見学（関係機関）	1	-	-	1	1	-	4	1	-	8
手帳申請等	-	1	1	-	-	-	-	1	1	4
計	14	11	4	6	4	6	21	12	9	87

【相談内容】

- ・ 家族、本人～リハビリテーション受け入れ先について。就労中や、通所を休みがちな方の状況把握等
- ・ 医療機関（脳神経外科・リハ科・精神科病院、クリニック）～退院後の支援、受け入れ先について
- ・ 行政機関、就労支援・介護支援・相談支援事業所～受け入れ先について、対応困難なケースについて

(2) リハビリテーションプログラム実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
通所登録者(人)	19	20	20	20	21	21	21	21	21	
実施回数(回)	16	16	17	15	16	16	16	16	15	143
延べ人数(人)	103	116	113	103	139	123	125	134	125	1081
1日平均通所者(人)	6.4	7.3	6.6	6.9	8.7	7.7	7.8	8.4	8.3	7.6

プログラムの内容は、ミーティング、認知訓練のほか、話し合い・体操・料理・ゲームなど、高次脳機能障害者のみのグループ活動と、陶芸・絵画・行事の役割別グループなど、精神障害通所者と合同の活動がある。また、高次脳機能障害者のグループに所属しないケースもある。

通所日数は、週1日～週5日まで、就労や他機関との併用、体力や精神的疲労の度合いなど、個々に合わせて通所日数を決定している。

(3) 本人・家族への支援調整

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
個別相談	3	3	3	4	3	2	-	1	11	30
家族面談	8	-	-	-	1	1	6	8	4	28

- ・ 本人～対人関係や障害の悩みや不満、就労等への準備について、日常生活における計画や手順の工夫
- ・ 家族～関わりの苦勞、工夫を聴くほか、家族面接は本人と家族の意思疎通や目標確認の場ともなる

(4) 本人・家族の目標設定と振り返り

	実 施 内 容
4月	座談会（グループの中でのリハビリの振り返りとフィードバック）
4月	定期面接（本人・家族同席での振り返りと目標設定）
10月	座談会（グループの中でのリハビリの振り返りとフィードバック）
10～12月	定期面接（本人・家族同席での振り返りと目標設定）

(5) 家族の集まり等

	回数	内 容
4月	6	家族の集まり・食事会
5月	3	家族の集まり
6月	7	家族の集まり・食事会
7月	5	家族の集まり・センター祭
8月	3	家族の集まり・食事会
9月	6	家族の集まり・キャンプ
10月	3	家族の集まり
11月	5	家族の集まり・食事会
12月	4	家族の集まり

2. 支援調整・検討会議の開催

(1) 施設内支援検討会議

	回数	実 施 内 容	出席者
4月	8	支援計画の評価検討、支援計画作成	医師、保健師、OT、PSW
5月	1	支援計画作成	〃
6月	2	支援の評価・まとめ	医師、OT
7月	1	支援の検討	医師、保険師、OT、PSW
8月	2	支援計画の評価検討	〃
10月	6	支援計画の評価検討	〃
11月	8	支援計画の評価検討、支援計画作成	〃
12月	9	支援計画の評価検討、個別対応の検討、	〃

(2) 他機関との支援調整

実施日	関係機関	場所
7月 7日	介護支援専門員、訪問リハST、 OT、居宅介護支援事業所職員 当施設 OT	当センター
10月13日	本人、家族、市役所保健師 就労継続支援B型事業所職員 当施設 OT	当センター
11月22日	市役所保健師、就労継続支援B 型事業所職員、当施設医師、OT	就労継続支援B型事業所

3. その他機関との連携

機 関	内 容
北海道大学病院	退院後の支援について 高次脳機能障害の診断・評価について
相談支援事業所	身体介護・身体的機能訓練が必要な方の、リハビリテーション・日中活動の受け入れ先開拓、家族支援
就労継続支援 B 型事業所	リハビリテーション終了後の通所開始 感情コントロールの困難な方への対応について

4. 教育・研修事業への参加

月 日	実 施 内 容	主 催
4月26日	高次脳機能障害 リハビリテーション講習会実行委員会 ・事例検討会準備会	リハ講習会実行委員会 北大病院
5月24日	高次脳機能障害 リハビリテーション講習会実行委員会 ・事例検討会準備会	リハ講習会実行委員会 北大病院
6月11日	高次脳機能障害者に関わる専門職と家族の交流会」参加	コロポックル
6月23日	高次脳機能障害 事例検討会 事例報告 (報告) 浅井直美	北大病院
7月3日	「高次脳機能障害の人を支援する」講演会参加	朝日新聞厚生文化事業団
9月27日	高次脳機能障害 リハビリテーション講習会実行委員会	リハ講習会実行委員会
10月15日	高次脳機能障害 リハビリテーション講習会	リハ講習会実行委員会
10月27日	高次脳機能障害者 支援連絡会議 高次脳機能障害者支援連絡会議 専門部会	北海道 〃
10月29日	「そうだ、高次脳機能障害のことを精神科医に聞いてみよう」 (講師) 阿部 幸弘	コロポックル
12月25日	高次脳機能障害者 事例検討会準備会	北大病院
1月19日	高次脳機能障害者 支援連絡会議 高次脳機能障害者支援連絡会議 専門部会	北海道
2月11日	高次脳機能障害者 事例検討会(※予定)	北大病院
2月27日	高次脳機能障害研修会(※予定) (講師) 阿部 幸弘	室蘭保健所

5. 今後の予定

- ・精神科デイケア等での高次脳機能障害者支援の状況についての情報交換
- ・就労継続支援事業所への同行
- ・障害の理解を深めるプログラムの検討

6. まとめ

事例を通して、相談支援事業所や就労継続支援事業所、ケアマネージャーや居宅介護支援機関等の福祉サービス機関に積極的に関わって頂く事ができ、高次脳機能障害への理解の広がりを感じる一方、新たな機関へつないだ後の、支援者へのフォローがさらなる課題である。特に、感情のコントロールに困難があるケースの支援については、環境が変わる事によって予測していなかった困難な場面が起こることや、逆に、障害の理解によって、工夫できることも少なくない。支援者が孤立しないよう、日頃から複数の機関・支援者が気軽に相談でき、知恵を出し合えるつながりが必要であると感じている。

平成23年度高次脳機能障害者支援事業「普及啓発支援事業」実績

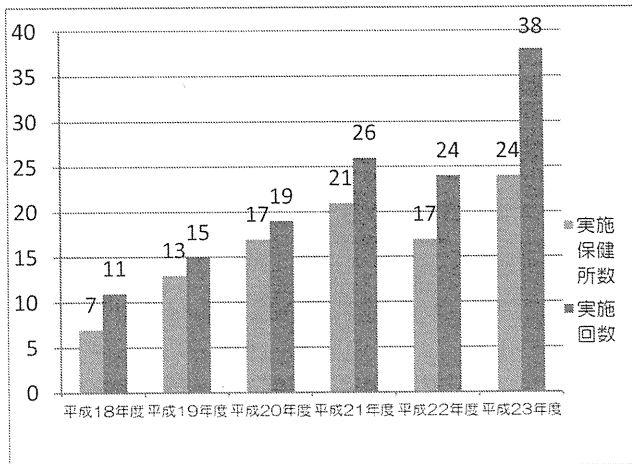
保健所別	普及啓発	関係職員研修	連携会議	事例検討	相談	新規	訪問指導	集団指導	他
A		①8/30、30名		①8/30、30名	3人、11件	1	実1/延1件		
B	①2～3月予定			①2～3月予定	7人、29件(専門相談会1回、17件)	2	実2/延6件	当事者2回延9名、家族2回延20名	
C	①11/5、122名	①7/23 92名	①7/23、16名 ②2～3月開催予定		5人、10件(専門相談会5回、5件)	7	実4/延4件		・高次脳機能障がい者聴き取りアンケート・所内学習会・ミニ学習会
D		ネットワーク会議として開催	①7/22、18名 ②2月頃開催	①9/6 10名	1人、2件(専門相談会1回、1件)	1	実1/延4件		自立支援医療申請書からの実態把握、町保健師依頼により対応(状況確認・相談会周知1名・事例の状況及び支援状況聴き取り3名)
E	①2月予定		①9/8、6名		1人、1件	1	実3/延5件	家族の会1回、15名	
F			①8/30、25名		2人、2件	2	実3/延3件	当事者8回、延7名	HP掲載、精神保健事業パンフレット記載
G						0	実1/延2件		精神障がい者業務支援システムを活用し、村保健師から聴き取り
H	パンフレット・支援機関一覧配付。保健所HP掲載	①10/13、29名	①7/5、18名②12/7、11名③2/2開催予定	①7/5、18名②2/2ネットワーク会議で実施	12人、57件	4	実7/延16件	当事者の集い4回延15名、家族4回延19名	パンフレット、支援機関一覧配付
I	①8/29、18名	②8/29、80名	①11/9 8名 ②12/21 8名③3/12開催予定		11人、19件	7	実3/延8件	家族4回(3月予定)6名+α	実態調査予定・啓発用パンフレット作成
J	①12/16、55名	①12/16、55名 ②3/2開催予定	①3/2開催予定	①5/25 9名 ②1/13 9名	1人、1件	1	実1/延2件		
K		①11/28、107名	①8/7、10名②7/11、14名 ③9/20、15名 ④2月予定	①9/20、15名	2人、2件	1			①担当窓口パンフレット・HP掲載②脳外傷ハビリテーション講習会に関する企画・運営・周知協力③当事者の集いに関する調査
L	①10/21、30名	①10/21、43名	①5/18、14名②9/14、13名③12/7、12名	①5/10、4名②9/20、4名	5人、7件	1	実5/延11件		
M	①4/15、37名 ②6/17、69+α名		①6/17、17名 ②9/27、20名	①5/7、9名②6/17、17名③10/5、9名	9人、27件(専門相談会1回0件)	3	実2/延2件		①地元FMラジオで個別相談会PR②啓発媒体作成し管内市町村配付予定
N	①9/2、30名	①9/2、31名			1人、2件	1	実1/延1件		
O	①9/29、16名				2人、4件	2	実2/延2件	家族の会3回7名	
P	①3/2予定	①2/27予定	①9/30、22名 ②3/9予定		10人、23件	5	実3/延9件	当事者の集い3回5名、家族の会3回10名	
Q	①10/11、18名	①8/3、21名 ②2月予定	①10/26、20名 ②3/2、25名	①8/3、21名	19人、38件	9	実7/延11件	当事者9回延35名、家族の会4回延16名	相談窓口のリーフレットの情報更新
R	①2/17予定	①2/17予定				0			
S		①2/24予定				0			関係機関への聞き取り調査
T		①12/9 20名			1人、1件	1			関係機関調査の実施、支援する会の支援実施
U	①12/10、100名		①2/2予定			0	実2/2件		
V		①8/25、45名	①8/25、45名		5人、9件	5			北海道看護協会紋別支部研修(114名出席)所内HP
W	①10/22、90名	①9/29、58名	①12/19、21名 ②2/6予定	①12/19、21名 ②2/6予定	5人、5件	4		当事者8回延40名、家族1回予定	実態調査「子どもの頭部受傷・高次脳機能障害実態調査」
X		①3月予定	①3月予定		9人、29件	5			自主組織育成、脳外傷講習会参画
Y	①2/29予定	①2/29予定	①2/29予定	今後実施予定	1人、5件	0			
Z		①10/20、26名	①10/20、26名		1人、1件	1	実2/7件		地区組織支援
概要	26保健所のうち24保健所で、延38回の実施。一般住民や支援関係者に対し、啓発普及の講演や研修を実施している。		連携会議を実施しているのは20保健所で20回、事例検討会実施は11保健所で18回実施。会議あるいは事例検討会いずれかを実施しているのは22ヶ所。		相談は22保健所で111人延283件、訪問指導は18保健所で50人延96件を実施。今年度新たに支援対象として64人を把握している。		当事者や家族に対し、小集団の形で主催支援を実施しているのは9保健所		

高次脳機能障がい者支援事業

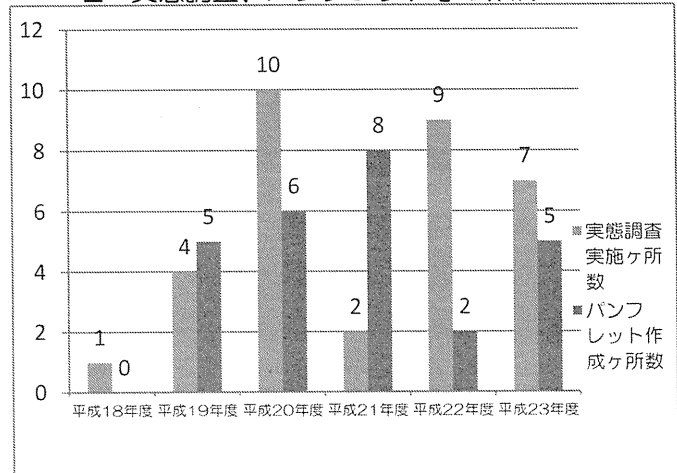
「普及啓発相談支援事業」の実績推移（H18年度～H23年度）

平成18年度から平成23年度の5年間の道立保健所における「普及啓発相談支援事業」の実施状況を下図に整理した。（ただし、平成23年度については、12月末までのデータであり、今後増加が見込まれる）

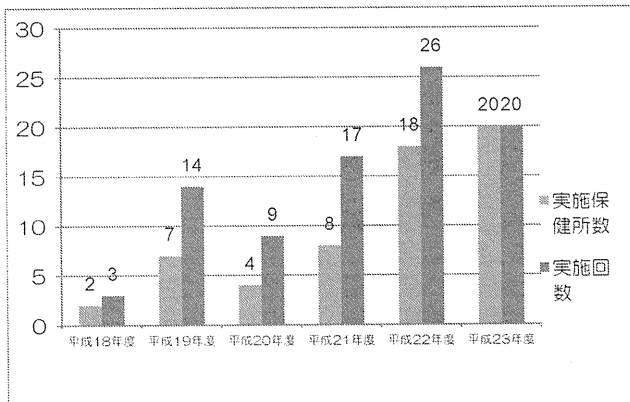
1 講演会及び研修会実施状況



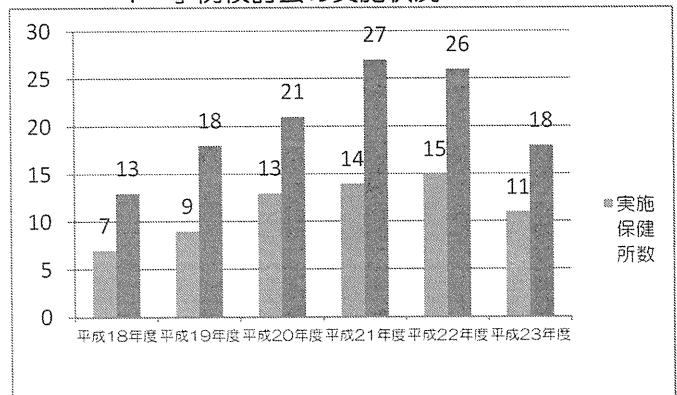
2 実態調査、パンフレット等の作成



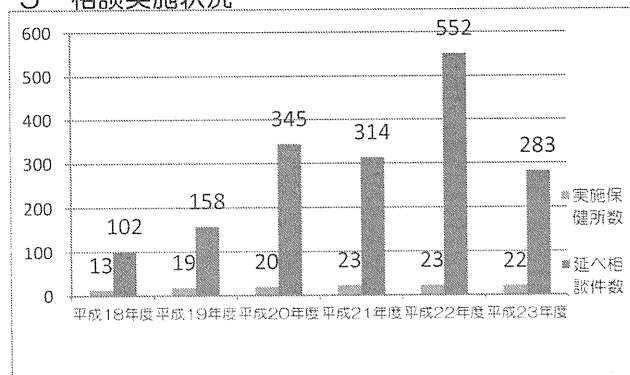
3 ネットワーク会議の実施状況



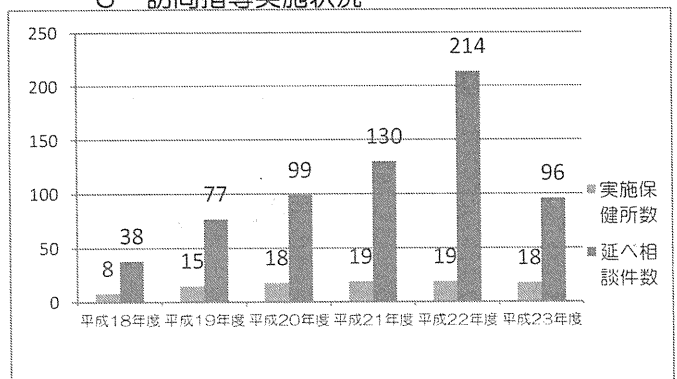
4 事例検討会の実施状況



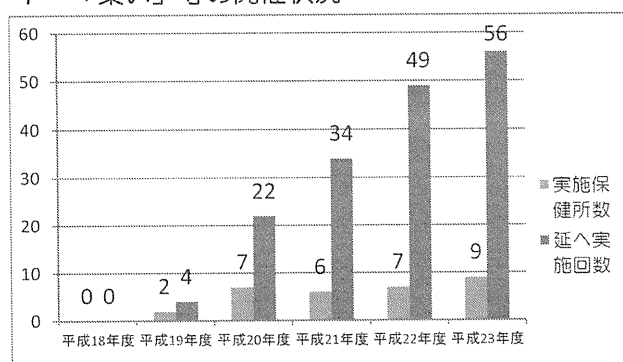
5 相談実施状況



6 訪問指導実施状況



7 「集い」等の開催状況



※研修や会議等、複数保健所による合同開催の場合は、実施回数は各保健所の実施回数として合算し計上。

見えない障がいに 気づいたら

高次脳機能障がいの方への
相談対応の手引き

ささいなことで怒ったり
泣いたりする

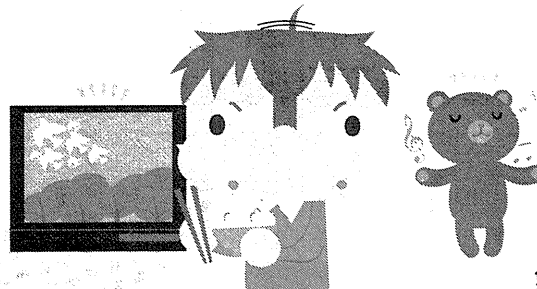


その方達は、
見えないSOSを
発しています！

すぐに忘れる
話についていけない



言われていることに
興味を示さない



物事に
集中できない

このような困りごとがあれば、関係機関につないでください！

- 支援拠点病院(北海道大学病院リハビリテーション科)等の医療機関
- 支援拠点機関(NPO法人コロポックル・NPO法人Re~らぶ・こころのリカバリー)等
- 保健所
- 家族会 等

見た目ではわかりません

交通事故やスポーツで頭をうったり、脳の病気になった方の中には、
身体が回復した後も、次のような症状で悩んでいる方がいます

❁ 次のような症状を訴えていませんか？

認知障がい

- すぐに忘れる。新しいことを覚えられなくなった(記憶障がい)
- うっかりミスや不注意が多くなった(注意障がい)
- 生活や仕事で段取りを立てたり、効率的に計画を立てて物事をすすめられなくなった(遂行機能障がい)

ゴール設定が困難

物事の優先順位を
決められない
すべての計画の
段階付けができない



作業中に自分が 何をしていたのか忘れる

さっき言ったこと、
言われたことを忘れる



社会的行動障がい

- 自己主張が強くなった、ささいなことにこだわるようになった(固執性)
- 多少のことでイライラしたり、怒りっぽくなった(感情コントロールの低下)
- 欲しいと思うと我慢ができなくなった(欲求コントロールの低下)
- すぐに親や周囲の人に頼るようになった、子どもっぽくなった(依存性・退行)
- 相手の気持ちになって考えることができなくなった(対人機能拙劣)

人との約束を守れない 課題を最後までやり遂げることができない

生活が繋がらず、
物事が習慣化しない



ご存知ですか？「高次脳機能障がい」

高次脳機能障がい者は

■ 外見では障がいがあることがわかりにくく、病識もほとんどありません
本人も自覚することが難しいため、「見えない障がい」ともいわれます。

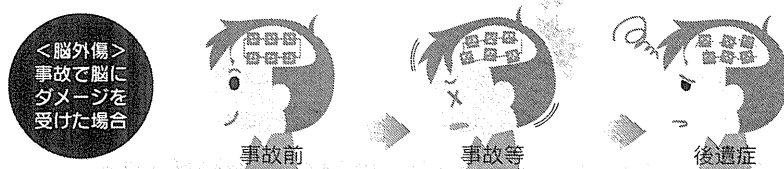
■ 退院してから、生活に支障をきたし困ります
毎日の生活では、それほど問題がないように見えても、仕事では判断や対人関係でミスやトラブルを生じ、仕事が出来なくなる等、社会生活に支障が出ることもあります。
家族も、本人の対応にとまどいや大きな不安を抱えることもあります。

原因となる主な疾患

- 脳外傷
- 脳血管障害
(くも膜下出血などの脳出血、
脳梗塞)
- 低酸素脳症
- 脳炎
- 脳腫瘍など

高次脳機能障がいとは

脳外傷や脳血管障害などの病気により脳にダメージを受けることで生じる認知障害や行動障害などの症状を、「高次脳機能障がい」と呼びます。

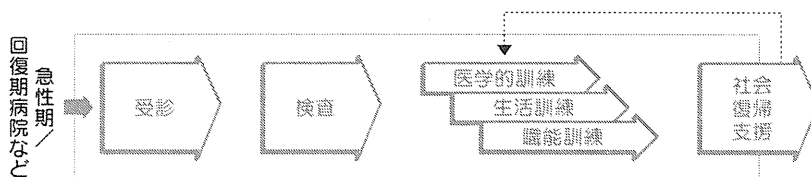


脳は高性能でデリケートな部品でできたコンピュータにたとえられます。脳は外側を固い頭蓋骨に覆われていますが、交通事故などで頭を強く打ち、脳を強く「ゆさぶられる」ことによって、中の部品のケーブルが切れてしまい、コンピュータの機能が十分に動かなくなってしまうことがあります。

障がいの自覚と訓練

- 適切な時期に専門的な訓練を受け、高次脳機能障がいへの効果的な対応方法をご自身が具体的に知ることが大切です。
- 医学的な訓練だけではなく、社会生活や職業生活などを試せるような訓練を受け、自分の状態を知り、さらに社会で支障なくやっていくための支援を受けることが大切です。

※ 家族や支援者は、接し方や対応のポイントを知ることが大切です。不適切な対応は、本人を混乱させてしまいます。



訓練・支援内容

高次脳機能障がいの状態や目標に応じ、必要な訓練・支援を行います。具体的な方針は、受診・検査の後に検討します。

- 医学的訓練 = 作業療法士(OT) 言語聴覚士(ST) 臨床心理士(CP) などにより、脳の回復促進などを目的に行う訓練
- 生活訓練 = 日常生活や社会生活能力の向上に向けた訓練(主に入所)
- 職能訓練 = 仕事を支障なく行えるようにする訓練(主に通所)
- 社会復帰支援 = 職場、学校、施設、自宅などにおける支援

【参考】名古屋市総合リハビリテーションセンター高次脳障害パンフレット 一部修正し引用

関係機関につないでください①

次のステップに踏み出すことができます。

❁ 役所からの情報提供

・命が助かって退院したものの、別人のようになった息子に困り、福祉の窓口に行きました。
「高次脳機能障がい」とはじめてわかり、家族会や色々なサービスにつながって、ようやく肩の力がぬけました。
それまで何年間もトラブルをおこし、本人も家族も疲れ果てていたのです。

60歳代母

❁ 復職復帰の調整

・医師やソーシャルワーカーに感謝しています。
心筋梗塞の後に高次脳機能障がいを発症しました。元の職場に戻るため、職場の上司との調整に、
主治医やソーシャルワーカーがかかわり、障がいの理解を得た上で復職にチャレンジできました。
職場復帰には、丁寧な調整が不可欠です。

40歳代妻

❁ 作業所に行って

・自分では仕事ができると思っていたのですが、就職できません。妻にすすめられ通所しましたが、
実は気が進まなかったのです。現在では、仲間もでき、達成感もあります。これから来る人には、「心配する
ことないよ」「とりあえず飛び込んでみな」と伝えたいと思います。

60歳代本人

・作業所の作業が順調だったため、障害者職業センターにつながり、現在は仕事をしています。失敗しなが
らでも、小さなステップを超えられたのが、就労できた要因だと思っています。

60歳代母

❁ 家族会のサポート

・息子が飲酒して転倒し、脳挫傷となり、高齢の自分が介護しています。
妻も要介護で、介護者は自分だけです。弱音を相談できる人がおらず、布団の中で何度も男泣きしています。
同じ悩みを持つ家族会が唯一心許せる仲間です。

70歳代父

・高次脳機能障がいの本を沢山読んでも対応できません。主治医からは「障がいが残ると説明したでしょう」
の一言で、とりあってももらえませんでした。家族会ではじめて、個別の障がい特性に合ったアドバイス
をもらい、とても助かりました。

40歳代妻

関係機関につないでください②

まずは、最寄りの保健所にご相談ください(裏表紙を参照してください)



専門機関

区分	名称	住所	電話番号	備考
診断・リハビリテーション	国立大学法人北海道大学病院 リハビリテーション科	〒060-8648 札幌市北区北14条西5丁目	011-706-7010 リハビリテーション科外来 011-706-5740 高次脳機能障害支援 コーディネーター	支援拠点 医療機関
	札幌医科大学附属病院 リハビリテーション科	〒060-8543 札幌市中央区南1条西16丁目291番地	011-611-2111(代)	
復職・就労	独立行政法人高齢・障害者雇用 支援機構北海道障害者職業センター	〒001-0024 札幌市北区北24条西5丁目札幌サンプラザ5階	011-747-8231	
手帳等	北海道心身障害者総合相談所	〒064-0944 札幌市中央区円山西町2丁目1-1	011-613-5401	
こころの相談	北海道立精神保健福祉センター	〒003-0027 札幌市白石区本通16丁目北6番34号	011-864-7000 相談予約電話	
	札幌こころのセンター (札幌市民の方)	〒060-0042 札幌市中央区大通西19丁目	011-622-0556 相談予約電話	



その他の高次脳機能障がい者相談支援機関、家族会等

名称	住所	電話番号	備考
こころのリカバリー総合支援センター	〒003-0029 札幌市白石区平和通17丁目北1番13号	011-861-6353	
脳外傷友の会「コロボックル」 NPO法人コロボックルさっぽろ	〒062-0051 札幌市豊平区月寒東1条17丁目5-39	011-858-5600	
脳外傷友の会「コロボックル」 道東支部	〒080-0010 帯広市大通南12丁目サンバリエビル3階	0155-24-6974	
脳外傷友の会「コロボックル」 道南支部	〒040-0052 函館市大町6番15号	0138-22-6188	
脳外傷友の会「コロボックル」 道北支部	〒062-0051 札幌市豊平区月寒東1条17丁目5-39	011-858-5600	
特定非営利活動法人Re〜らぶ	〒003-0023 札幌市白石区南郷通7丁目北5番29号スタジオセブンビル2階	011-868-7844	
「つながり」 高次脳機能障がい者を支援する会	〒090-0062 北見市美山町68-9 道東脳神経外科病院医療生活相談室内	0157-69-0300	